『國民新報』1940年3月3日

[主張]　知識層の孤島[[1]](#footnote-1)

　いつのにもの はあるものである。現世にをいて、をとし、にるを屑しとしない[[2]](#footnote-2)もゝの一である。これらはらくまつて、をもつてをんでゐるものである。のやのなどによくられたものだ。

　しかるに今日にいても、かゝるのがされつゝある。それらのはいづれもで、をもつてらずるもので、のでしてゐたものであるが、のにしがしつゝあつた一より きりにされたものである。はのが、いつまでもおのがにあるものと、をつてゐるに、はしいにつて、いにいてけぼりを喰はして、ずんずんといへんでしまつた。そしてこれらのはぽつねんとのところにりされたのである。

さて、これらのはにしたらいゝのか。からはいづれもくの用をかけてしたであつて、そのててしまふことはにないことである[。]なんとかしてをびにてなければならない。

ところがこれらの、されんとするにをれるには、づしくをさせることからまらなくてはならないが、つたことには年のをけたのとして、にがあり、はからへびかれるべきでは ないとして、くのをして、一のや では、そのをかすことはないし、これらのははよりもであるとして 々んでもれないし、よしや んだところで、それにされるやうなことはない。

らばにすれば、このののをびにびすことが るか。それはなるのにたなければ ならない。ちとによつて のみなしられることである。しかも、このの にするのはでなければ ならない。これらのがをするのでなければ はせられない。

このの はをじては百をえぬかもれない。はそのなものは 十かもれない。しかしにはかれなかれ、のをもつてゐる。である から、がないといつて、して、ほうつてけといはるべきでは ない。のがければはになるものである。

1. この文章は一部「わかちがき」がなされている。なお、新聞掲載時はタイトル以外「智識」と表記され、『同胞に寄す』ですべて「知識」に修正されている。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 「世事にる」は新聞で「世事にはる」と誤植され、単行本『同胞に寄す』で「世事にたづさはる」とされている。「屑し」は「いさぎよし」と読む。 [↑](#footnote-ref-2)